



# 秋臨技だより

第112号

発行所 秋田市南通亀の町6-9  
〒010-0011 シティガーデン南通 1 101  
TEL/FAX : 018 (825) 2116  
Email: aamt-01@comet.ocn.jp  
https://aamt.sakura.ne.jp

発行人 佐藤 友章  
編集主幹 北村 一幸

## 目次

新年のご挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

第46回秋田県医学検査学会・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

令和6年度 全国「検査と健康展」・・・・・・・・・・・・ 4-5

環境・保健事業功労者表彰・編集後記・・・・・・・・・・ 6





## 新年のご挨拶



(一社) 秋田県臨床検査技師会  
会長 佐藤 友章

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては日頃より技師会活動にご理解・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。2025年の干支は、乙巳（きのとみ）、60年周期の干支の中で42番目に位置し、「努力を重ね、物事を安定させていく」という意味合いを持つ年だそうで、成長と結実の時期となる可能性が高く、これまでの努力や準備が実を結び始める年のような意識しながら着実に進んでいければと思います。昨年 of 県学会は参加人数257名と多くの皆様が会場へ足を運んでくださり、日ごろの研究成果報告、意見交換なども活発に行われ大変有意義な学会で、コロナ禍を経て新たな一步を踏み出せたのではと感じた次第です。

秋臨技主催のタスク・シフト/シェア実技講習会も開催6回目を迎えます。これまで多くの会員が受講したと思いますが、今後は県技師会単独での開催は参加人数などを考えると難しくなるのではと思われまます。これは秋田県技師会だけの問題でなく、他県も同様の状況のようで、近隣県技師会、支部と広範囲に展開される可能性もあり情報収集に努めてまいります。すでにタスク・シフト/シェアを実施している施設におかれましては、経験と実績を積極的に発信してもらい、秋臨技の施設・技師間で内容を共有しながら日常業務の一部として浸透していくことを期待しています。

本年は、日臨技事業の一部として大規模災害対策に関するマニュアルの制定、秋田県との連携や協定などの対応も進めてまいります。このほかにも課題はありますが皆様の声に耳を傾けつつ、解決に向けて一つ一つ丁寧に取り組み、魅力ある技師会となるよう、役員、理事一同、貢献していく所存です。会員並びに賛助会員の皆様におかれましては、引き続きご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

文末になりますが、皆様にとって本年が健やかで実り多き一年となりますことを祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。本年もどうぞ宜しく願いいたします。

# 第46回秋田県医学検査学会 終了の御報告と御礼

第46回秋田県医学検査学会 実行委員長

秋田大学医学部附属病院 高橋智映



この度、令和6年11月9日（土）パーティーギャラリーIYATAKAにて、第46回秋田県医学検査学会を、会員・賛助会員の御協力のもと無事に終えることができました。お陰様で参加者250名と非常に多くの方に御参加いただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の終息は未だしておりませんが、徐々に以前の生活様式に戻りつつある中、5年ぶりに完全開催となりました。私自身もWeb開催の恩恵を感じていたため、現地参加のみでどのくらいの会員に来て頂けるだろうか？と不安でしたが、学会当日は若手～ベテランに至るまで多くの方にご来場頂き、共に学会準備を進めていた中通総合病院のスタッフとともに楽しみながら学会運営ができました。

一般演題は25演題の発表があり、そのうちデビュー賞は15演題と半数以上でした。あらためて本学会が臨床検査技師のキャリア第一歩として欠かせないステージであると認識しました。緊張はしていたと思いますが、デビュー賞とは思えない堂々とした素晴らしい発表だったと思います。午前中は2会場での同時進行の予定でしたが、冒頭第2会場で通信機器トラブルがあり20分遅れての開始となりました。関係者の方々にお詫び申し上げます。しかしながら、トラブル発生後はPC担当の迅速なリカバリーと発表者・座長の御協力のお陰でランチョンセミナー以降はオンタイムで進めることができました。学会運営で起きたトラブル対応は、日々の業務の中で発生するトラブル対応と流れは同じです。発生した事象を分析し、原因を突き止め、今できる最善の方法を決定する。回復までの時間を算出し、対応（説明）する。あくまでも冷静に。そういう意味では良い連携だったと感じます。

ランチョンセミナーは5社の御協力のもと、4会場で実施しました。心より御礼申し上げます。また、特別公開講演は秋田大学大学院医学系研究科 総合診療・検査診断学講座 教授の植木 重治先生に「秋田のウェルビーイングと臨床検査」と題して、今後の秋田の人口動態推計から、秋田だからできる医療・検査について多方面からご講演頂きました。先を見据えた検査室の再構築、人材育成の必要性を強く感じながら拝聴しました。

最後になりますが、中央支部では2施設ずつ持ち回りで秋田県医学検査学会を運営しており、今回は中通総合病院と大学病院で担当させて頂きました。本学会テーマ「医gnition-イグニッション/今こそ道を切り開く-」は中通総合病院 伊藤大輔さんが、学会ポスターは同病院 佐藤ちひろさんの作成です。医療業界を取り巻く現実は厳しくもありますが、チャンスもあるはず。今回の学会参加が次の未来への第一歩となるきっかけであれば幸甚に存じます。事前準備はWeb会議とSNSで行い、会議に伴う実行委員の負担を減らしました。その分不行き届きもあったかと存じますが何卒ご容赦下さいますようお願い申し上げます。関係各所全ての皆様に、深く感謝いたします。ありがとうございました。



## 令和6年度 全国 「検査と健康展 in 大仙市」



平鹿総合病院

吉田 千穂子

検査と健康展が各支部持ち回りとなって4年目、県南支部初の検査と健康展がイオンモール大曲特別催事場にて令和6年11月23日（土）に開催されました。

「臨床検査技師」と「検査」を広く知ってもらうために、県南各病院・医院をはじめ、小中学校・高校、図書館や交流館にポスターとチラシを配布しました。会場が商業施設の中央広場の近くだったこともあり、来客数260名とたくさんの方に来場いただきました。

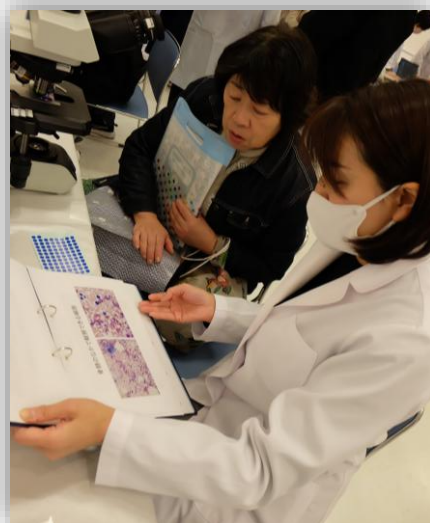
会場入口では各検査のパネルを展示し、若手技師による技師養成校の紹介と臨床検査技師になるためのアドバイスをしました。健康チェックでは保健師による血圧測定、医師による健康相談のほか、今年は加速度脈波検査と超音波式骨密度検査を実施し、大変好評で各ブース100名以上の方に参加いただきました。検査体験では血液、病理、輸血、生理と4部門から協力いただき、実際の顕微鏡やバーチャルスライドで標本を見たり、血液型について学んだり、超音波でゼリー内の果物を当てたりと、年齢問わず興味を持って体験していただくことが出来ました。また、子供用白衣での記念撮影やたくさん検査体験していただくためにスタンプリーを行い、盛況に終わることが出来ました。

私をはじめ初めて経験するスタッフも多く、試行錯誤しながらの検査と健康展でしたが、楽しみながら無事終わることが出来ました。

3時間という限られた時間でしたが、たくさんの方にお越しいただき、「楽しかった」、「また来たい」、「来年もあるの?」といった嬉しい言葉もたくさんいただきました。今回の経験を活かし、今後の検査と健康展に繋げていきたいと思えます。

今回参加、ご協力いただいた県南支部会員の皆様、藤谷富美子副会長、佐藤多佳子前担当理事、浅利智幸学術部門長、萱場先生、保健師さん、企業の方々に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

# 令和6年度 全国「検査と健康展in 大仙市」





## 環境・保健事業功労者表彰



令和6年11月20日（水）秋田県庁にて「令和6年度環境・保健事業功労者表彰式」が執り行われ、永年に渡り秋臨技にご尽力くださいました清水盛也氏（能代厚生医療センター）が受賞されました。

**おめでとうございます！**

## 編集後記

近年、海水温上昇の影響などで、獲れる魚にも色々と影響が出ているようです。県内産ハタハタに関しては、びっくりするほどの値段が付いておりました。また昔のように、豊漁となることを只々願っております。

かづの厚生病院 北村一幸